

改めて、一年間よろしくお願ひします。

やっと六年生が始まりました。この間、ご家庭で子どもさんの生活・学習を支えていただき、ありがとうございます。大変感謝しております。報道で伝わってくる医療関係者の多忙、または、休業を余儀なくされた会社勤め方の苦勞を知る度に、何の力も發揮することの出来ない教師という仕事の歯がゆさを感じてきました。

「ICTの環境さえあれば、自宅からでも授業が出来るのに。」と、諸外国との遅れを痛感しました。こんな思いで三月からの日々を過ごして参りました。

世間では、学力低下、学力格差の声が上がり、保護者の方も心配されていることと思われまます。まだ学期も始まっておらず、本当にそうなのかもわかっていないのに、早々と、夏期休業の短縮や行事の縮小が決まり、子どもたちにとっては、楽しいことのない学校生活を強いられることになりました。学力に対する不安につきましましては、これからが、我々教師の力量の見せ場であると考えています。どの教材や単元に重点を置いて、どの教材や単元に時間をかけずに進むのか、教えることの軽重は十分わかっていません。四月からは、ゴールデンウィークを省くと一ヶ月半、三月からも入れると二ヶ月半、この遅れは充分取り戻せまます。教えるプロである

と言う自負を持って、これからの日々に向き合ひ、学力に関する世の中の不安を払拭したいと思っております。

しかし、一方で考えなくてはならないのは、子どもたちは本当につらい学年の始まりを迎えていると言つことです。本来であれば、春の校外学習で飛鳥に行つて歴史に興味を持つことができているのですが、それができていません。また、これからの暑い時期に水泳の学習が始まるのですが、香芝市では既に行わない事が決まっています。授業につきましても、接触を避けるために、マットや跳び箱の器具を使った教材はできないことになり、学習内容が限られています。更に、今日から学校が再開したのですが、休み時間も友達とも触れ合うこともできません。それなら、読書となるのですが、これも自由な貸し出しができません、自分が持つて来た本に限られています。たくさん制限がある中で、学校生活を送らなければならないという、本当にかわいそうな子どもたちです。

ですから、学習も大切ですが、子どもがホツとできる時間や空間を学校で作ることも必要です。学習と本来の学校の楽しみ(学校に来る意味)をどう調整するのか難しい課題が私たち教師に突きつけられています。以前の学校の姿に戻ること待つかないのですが、これらのことを踏まえ、今日からの日々に向き合おうと思つています。また、良いアドバイスがあれば教えてください。一緒に考えていただければありがたいです。よろしくお願ひします。

子どものもめ事について

―学期が始まるにあたってお願ひしたいこと

①子どものもめ事にどう向き合うか

子どものもめ事は日々起ります。低学年のうちこそでもないのですが、高学年ともなると、体も大きくなり、そこで手を出してしまうとケガをすることにつながるし、場合によってはとんでもないことに発展します。ですから、日々平和な解決の方法を見つけるよう、これまでの学年でも指導してきました。

- ・怒りをおさめること。
- ・暴力はいけないこと。(そうしてしまつた場合は他に解決の仕方はなかつたのかをしっかりと考えさせる。)
- ・未来予測をすること。(自分に代わつて家の人が謝罪しなければならぬ事もあるし、軽率な行動が家族を巻き込むことにもなることを予測させる。(低学年のうちにはムリかもしれません。)
- ・自分の取る行動の一つ一つが周囲とつながつてあることを知り、家族の悲しみになることがあることを理解させる。

②もめ事の処し方について

子どものもめ事は、ある点では、非があつて、ある点で仕方ないということが多々あります。複雑な理由がからみ合つて、「わからないでもないが：。」と言つことが多いです。しかし、ある点で反省し、ある点で悪くないという納得の

させ方は、子どもには難しく、「この部分は正しいのだ」という事を強調してしまうと、自分の過ちに目を向けることができなくなりそうです。

やはり、自分の言動で相手を傷つけていることに目を向けさせ、考えさせることが肝腎です。「いろんな思いは分らないでもないが、やはりあなたのやったことは許されるべきことではない。しっかり反省してほしい」と納得させることが必要だと思えます。

学校でのトラブルはその日のうちに学校で解決して帰ってほしいです。納得しないまま家に持ち帰ることのないように、と言うことを子ども達に話しています。

#### ④もめ事についての連絡

もめ事があり、相手にケガをさせたり、保護者に考えて頂きたいことがあつたりする場合は、ご家庭に連絡します。また、自分には非がなくとも、不注意でケガをさせた場合も連絡します。事実関係がはっきりしない場合は、わかつた時点での連絡と共に、更に確かめて行くことを伝えます。

最近、子どもの間で解決していても、保護者の方が納得されないケースが見られます。事が起ると、双方の言い分を聞いて、話し合いを持ち、双方が納得できるような一応の解決の方向性を見出すのですが、それが、保護者にとって納得いかないので、子ども同士では円満に解決できたのに、家に帰るとそうではないこともあります。特に難しいのが、「いじめ」など

で、複数の子どもが関わっているときです。直接的な加害者ではないけど、その集団の一員である場合などです。

私が思うのには、悪い、悪くないという判断よりも、起こった事実を目を向けさせることの方が第一だと考えます。互いの思いをぶつけ合う話し合いの過程が大事であるので、もめ事に対して、考える場を学校は子どもに与えているのだということを理解して頂きたいのです。学校や担任を信じてもらうしかないので。

しかし、それでも納得いかない場合は、しっかり話し合おうと思います。電話ではなく、直接会って解決に向かう話し合いをしたいと思います。

もめ事があつたらしくり子どもの考えを聞き、思いを出させる。立ち止まってしっかり考えさせる。そんな繰り返しを大切にしていきたいと思えます。

#### 記述が変わった(変わっていない?)教科書

##### ④大仙古墳(仁徳天皇陵)

「大仙古墳」というと、何のことかと、私のような昭和の人間には思うのですが、社会の教科書には、次のように書かれています。

「大阪府堺市の仁徳天皇陵(大仙古墳)は、5世紀につくられた日本最大の古墳です。」「天皇(地域名)」という表記の仕方です。

しかし、考古学研究者の中から「仁徳天皇陵」という古墳に入っている人が、実は仁徳天皇か

どうか分からない。古墳がつけられた時期と仁徳天皇の没年が合わない。という理由で仁徳天皇の墓ではない可能性が出てきたのです。にもかかわらず、仁徳天皇と呼んでしまうと、誤解を生んでしまうので、地域の名前をとった「大仙古墳(仁徳陵古墳)」と、表記するのが一般的になっていきます。「大仙古墳(伝・仁徳天皇陵)」という表記もあります。

現時点では宮内庁が発掘調査を認めていないため、仁徳天皇が本当に埋葬されているかどうか、真偽をたしかめることはできません。そのため、天皇陵名を用いるのをやめて、地名で呼ぶようになってるのが一般的です。

ただ、二〇一九年に「百舌鳥・古市古墳群」として、世界文化遺産に登録されました。教科書はそれを見越して作られたのかどうかは分かりませんが、仁徳天皇陵を先に、地域名を( )でと言う、今の主流とは違った表記をしています。

